

花みずき



第172号

2026年 3月発行

ひのみね支援学校 人権進路課

春のやわらかな日差しを感じる季節になりました。卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。巣立ちの春に、心からのエールを送ります。また、この1年を振り返りながら、ひのみね支援学校の一人ひとりが、まわりの人への思いやりやあたたかい言葉かけの大切さを心にとめ、自分を大切に、そして周りの人を大切にする気持ちを忘れずに、それぞれの道を歩んでくれることを願っています。本年度も、保護者の皆様には様々なPTA活動にご協力いただきましてありがとうございました。来年度もよろしく願いいたします。

～今日という一日を大切に生きる～

毎年開催される徳島県人権教育研究大会。今年度は「一人ひとりがみんなたいせつ～作品に託す願い～」という演題で児童文学作家である、くすのきしげのりさんが記念講演をされました。くすのきさんは、徳島県出身の小学校の先生だった方です。鳴門市図書館副館長を経て、現在は児童文学作家としてご活躍なさっています。『おこだでませんように』や『ふくびき』等、みなさんも一度は目にしたり、手に取ったりしたことがあるかもしれません。本校の図書室にも、くすのきさんの作品が多数あります。

講演の中で、くすのきさんが作品を書く理由について、次のように語られました。

「バリアは私たちの心の中にある。いい作品（物語る力のある作品）を読むことは、その心の窓を開くことになる。だからこそ、『物語る力のある作品』をめざして書き続ける。」

「『想像する力』『共感する力』が大切。私たち大人は『今どきの子どもは…』と言う前に、自らが環境（モデル）になって、子どもたちの相手の心を察する、慮る、推し量る、思いやる心を育てていきませんか？」

絵本を投影し、作品の1シーンを音読されながら語られる言葉に、じんわりと、でもずっしりと、くすのきさんの思いが心にしみました。

勝浦校との植栽を通じた交流

中学部は11月19日に交流及び共同学習がありました。小松島西高等学校勝浦校と植栽交流を行いました。パンジーの花をプランターに3つずつ一緒に植えていきました。勝浦校の生徒さんから「上手だね」「すごいね」とたくさんの声をかけてもらったり、一緒に花をもって植えたりし、楽しいひとときを過ごしました。「水をあげて、大切に育てます。」とひのみね支援学校の代表からのあいさつに、他の生徒も嬉しそうにしていました。花がたくさん咲く頃に、もう一度一緒に花を植えたことを思い出すことができるといいですね。

